

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2019年度達成度評価表 分野:教育

		評価	理由
中期目標	三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。		
中期計画	1 学士課程教育の質的向上の推進	B	三つのポリシーに基づく、継続的なPDCAの実施からの改善については、学部により取り組みに差異がみられるものの全学的に実施していることは評価できる。アクティブ・ラーニングの推進や資格取得支援体制整備等、教育の質の向上に向けた取り組みについては、各学部ごとに注力している点が異なるため、全学的に連携をとって情報共有を行い、弱みを互換しあえる状態を作るなどの改善を行うことで、成果につながると考える。
	2 大学院課程の改善	C	三つのポリシーに基づくPDCAの実施については概ね遂行されている。しかしながら、入学定員充足のための方策は目標未達成の研究科が多く、大学院進学の特長の明確化、大学院広報の強化と連携して次年度以降積極的に取り組む必要がある。
	3 全学教育推進機構の整備充実	B	いずれの計画も概ね目標どおり達成できている。2019年度より設立された「学生の未来センター」ではまだ施策の有効性などについて検討すべき点もあるが、学生の未来センターの業務が軌道に乗ればますます計画が進むことが期待される。今後は各センターが連携し、より一層の取り組みが望まれる。
	4 FD活動の促進	B	全学的なFDと各学部・研究科独自のFDを実践し、各教員が共通認識を持って課題・問題点に対する改善策に取り組む環境が整っていることは評価できる。ただし、一部の学部・研究科において十分なFDが実施できていないため、改善が必要である。
	5 教育環境の整備充実	B	施設の保全や更新については一定の成果が見られる。しかしながら、予算が配当されなかった等の理由で進捗していない計画も見受けられる。予算が配当されずとも別で何かできることがないか検討を行う必要がある。また、施設設備の中長期保全計画は大学の将来計画と一体であると同時に法人財政の中長期計画の裏付けを根拠とする。今後、これらを包括的に検討する場が必要である。
	6 教育のグローバル化推進	A	2014年度に策定した国際化ビジョンの2019年度に達成すべき数値目標がある程度達成できていることは評価できる。しかしながら、全学的な取り組みについては好調である一方、学部としての計画はあまり進展していないため、国際交流センターも含めて連携して取り組んでいく必要がある。今後も継続した取り組みに期待する。
	7 アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜制度の見直し	B	入学者選抜制度の見直しについては、各学部での取り組みは進んでいるものの、各学部での検討では限界があるとの記載も見られるため、入学・高大接続センターが中心となった、全学的な見直しを行うための体制作りが必要不可欠である。
	8 附属中学校・高等学校との連携推進	C	附属中学校・高等学校との連携推進については、入学・高大接続センターを中心に様々な取り組みがなされているものの、うまく広報活動につながっていない。今後は、さらに連携を強化するとともに、その成果について適切な広報ができるよう法人内での連携が必要である。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る